

授業にピタッ！とデジタル教科書

地理

① 世界の諸地域の学習でのデジタル教科書活用例

～ ICT 大国インドとアメリカ合衆国の関係は？

(国立大学附属中等教育学校 教諭)

◆**単元名**：第2編 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域 1節 アジア州

「⑥発展する産業と社会」(教科書 pp.60-61)

◆**本時の目標**：

インドの食を切り口として、南アジアの農業の特徴を概観する。既習事項である時差の学習内容と関連づけながら、ICT産業の発展について理解させる。

《**本時の展開例**》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	<p>【問】 サッティヤジートさんのお話の()を埋めてみよう。</p> <p>【問】 ヒンドゥー教徒が多く暮らしている国はどこだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 p.128 のサッティヤジートさんのお話の「牛」「ビーフ」「インド」を空欄にした文章を載せたワークシートを配付する。 ・教科書 p.44・LL14～「南アジアで…存在です。」を読ませ、既習事項を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p.128 サッティヤジートさんのお話をスクリーンに投影し、答え合わせをする。 ・デジタル教科書 p.45 資料⑤をスクリーンに映し、本時がインドの学習であることを印象づける。
展開 (35分)	<p>●南アジアの農業に関する主題図から、インド国内でのカレーの食べ方の地域性をとらえる。</p> <p>【問】 インド国内で小麦と米の産地を確認しよう。</p> <p>【問】 インドでは「ピンク革命」(第一次産業の変化)が知られている。これはどのような変化を意味するのだろうか？</p> <p>●アメリカ合衆国との位置関係から、インドでICT産業が発展した理由をさぐる。</p> <p>【問】 インドとアメリカ合衆国の位置関係から分かることはどのようなことだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カレーとナン(チャパティ)の関係から、インドではカレーライス以外の食べ方があることに気づかせる。 ・インドでは宗教上の食の禁忌との関係から、ブロイラーやヤギ肉の生産が拡大している。肉の色から「ピンク革命」とよばれている。 ・ジュートについて解説する。 ・インドでのICT産業の発展の背景として、イギリスの植民地であったことから英語が話せること、理数系教育が盛んであること、アジア諸国のなかでも比較的賃金水準が低いことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p.60 資料③①から稲作と小麦の凡例を表示し、その分布を確認する。 ・時間に余裕があれば、ジュートの動画を視聴する。資料④からジュート生産の大部分がインドとバングラデシュで行われていることに気づかせる。 ・デジタル教科書 p.61 資料⑥と p.20 資料③を並置③させ、インドと合衆国の位置関係をとらえさせた上で時差の原理を復習する。 ・ベンガルールが午前9時のとき、サンフランシスコは何時になるか、経度差をもとに計算させる④。
まとめ (10分)	<p>【問】 インドのマクドナルドで販売されているハンバーガーの肉は何が使われているのだろうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多国籍企業のマクドナルドが地域に合わせた食材を使ってハンバーガーを販売(インドではチキン)していることに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書 p.101 資料④②を表示する。インドのマクドナルドの写真を確認する。

【ワンポイント】 たかのてるこ著『ガンジス河でバタフライ』(幻冬舎文庫)には、食堂でカレーを食べる場面やカースト制度、ヒンドゥー教の聖地バラナシでの沐浴などの様子が中学生にも理解しやすい文体で描写されており、授業づくりの参考になる。

◆指導にあたって：

- 教科書に収録されている多彩な資料を結びつけて活用することで、授業の展開に変化が生まれる。本時でいえば、p.128の「カレーからみた食文化」、p.20の「ロンドンと東京・ニューヨークの時刻と位置の関係」、p.101の「アメリカのハンバーガー会社の店舗の広がり」がそれに該当する。
- 2008年版の学習指導要領では、「世界の地域構成」「日本の地域構成」の学習が各諸地域学習の冒頭に位置づけられていたが、今回の学習指導要領では「世界と日本の地域構成」に統合されたため、地理的分野の最初の単元で時差の学習をする、以前の形に戻った。生徒の立場からすれば、数学科の正負の数の学習と並行する形で時差の学習をすることになり、時差の原理を正しく理解させるには指導面での一定の工夫が求められる。可能な範囲で、「世界の諸地域」の学習の中でも時差の計算を織り交ぜ、繰り返し復習できるようにするのも一つの方法である。
- インドでは「緑の革命」による高収量品種の導入による食料自給達成の段階から、国内のミルク需要に対応する形で進展した「白い革命」（ヒンドゥー教徒は牛肉を食べないが牛乳は飲む）を経て、ブロイラーなどの食肉生産の成長（肉の色から「ピンク革命」とよぶ）へと農業をめぐる構造が大きく変化してきた。この変化をおさえておくことで、「まとめ」のハンバーガーの話題につなげることができる。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 本時の「展開」では、ベンガルールとサンフランシスコの時差を求めることで、昼夜が逆転する両都市間で両国の企業が情報をやりとりすることで切れ目なく業務を継続できることを実感させたい。「東経」と「西経」にまたがる二都市間の経度差は、各都市とロンドン(本初子午線)との差を求め、それを合算することになる。教科書 p.20 資料③の図が回転するしかけを上手に利用することで、生徒の理解が深まるものと思われる。

1 南アジアの農業分布

★主題図を凡例ごとに着色して表示することで、分布に注目させる(①・②)。

2 アメリカのハンバーガー会社の店舗の広がり

3 ロンドンと東京・ニューヨークの時刻と位置の関係

★インド・アメリカ合衆国の位置と時差を並置して関連づけて考えさせる(③)。
 …資料を並べて比較させることで、学習効果が向上する。
 ★地図が回転することで、都市の位置と時差を関連させて学習することができる(④)。

4 ロンドンと東京・ニューヨークの時刻と位置の関係